

QRコードをスマートフォンやタブレットで読み取ると、各議員の一般質問の動画が視聴できます。

Q

脱炭素化社会の実現に向けて、家庭への啓発による行動

環境教育から脱炭素社会を

A 本年度、シニアクラブ、社会福祉協議会、市の三者で「シニアクラブ在り方意見交換会」を立ち上げました。時代に合った形をともに考え、高齢者の生きがいと健康づくり等が推進され、福祉向上が図られるよう、引き続き支援をしていきます。

令和の時代に合った形をともに考えていく

Q 超高齢社会となり、高齢者の割合は増加しているが、シニアクラブのクラブ数や会員数が減り、存続が厳しい団体も現れ始めている。シニアクラブの今後の方向性について伺う。

シニアクラブの今後の方向性は



創世会
山田浩司



アース キッズチャレンジ

A 小中学校の児童や生徒を対象に、事業者や学識経験者を講師として「環境学習講座」を実施しており、本年度は13校18講座を実施しました。10月には上内田小学校において、地球温暖化防止の体験学習「アース・キッズチャレンジ」を市内で初めて静岡県地球温暖化防止活動推進センターと共催で実施しました。今後も教育委員会と連携して受講する学校の拡大に努めていきたいと考えています。

教育委員会と連携して環境教育に努める

変容が必要であり、そのためには学校現場での環境教育が非常に重要である。学校の負担を増大させない手法による環境教育ができないか伺う。



A 県内では空き家とセットなどで農地取得の下限積引き下げの特例を設けている市町は8市町あります。令和2年度に特例を利用した申請は、浜松市で5件、島田市で4件あったのとこので、一定の成果が見込めるものと考えています。今後、農業委員会とも協議して、制度の検討をしていきます。

農業委員会と協議し特例制度の検討をしていく

Q 中山間地域への移住定住を勧めるには、空き地と農地がセットで取得できる制度の構築が有効と考えるが見解を伺う。

中山間地域への移住定住策は



創世会
高橋篤仁



A 市のホームページでは、トップページに「移住情報」を特出しし、移住希望者の目に触れやすいように工夫しています。また、掛川市公式LINEのセグメント配信において、移住定住の情報を選択できるようなっています。掛川市独自の支援策としては、「子育て世代向け認定住宅供給事業」を実施しています。移住希望者への支援策については、ホームページに掲載していますが、より一層わかりやすい情報発信に努めます。

移住希望者への支援策をわかりやすく情報発信していく

Q 掛川市独自の支援策を講じ、掛川市公式ホームページ内の移住情報において周知すべきと考えるが見解を伺う。

市独自の移住支援策は